

広
報

天使びょういん



T E N S H I - H O S P I T A L



撮影：織田 小百合



- p2-3 糖尿病・代謝センター
- p4 Inside hospital「血液内科」
- p5 天使病院の天使たち
- p6 エッセイ「わたしの〇〇」(第21回)
- p7 病院図書室
- p8 お知らせ

糖尿病・代謝センター

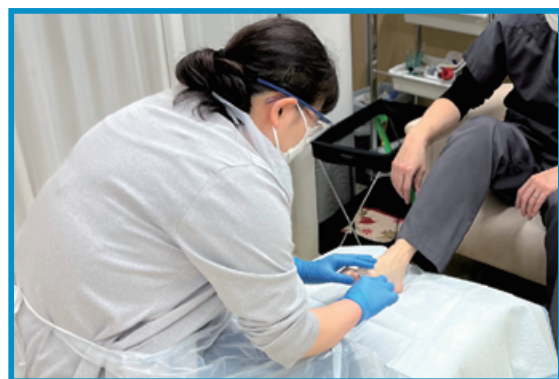
栄養指導

当院では、専門の管理栄養士が常駐し、糖尿病患者さんに対して個別の栄養指導を行っています。食事内容を見直し、血糖値の安定をサポートする方法を学ぶことで、薬の効果を最大化し、合併症の予防にもつながります。また、生活習慣を改善し、健康的な体作りをサポートします。無理なく続けられる食事法を一緒に考え、患者さんに寄り添った指導を提供しています。お気軽にご相談ください。



フットケア

当院では、看護師が糖尿病患者さんの足を診察するフットケアを行っています。フットケアは足の健康を守るために非常に重要です。血糖値が高い状態が長く続くと、神経障害がおこり、足の感覚が鈍くなり、傷や感染に気づきにくくなります。毎日足をチェックし、清潔に保つこと、適切な爪のケア、足にあった靴を履くことが予防につながります。早期のケアにより、足のトラブルを防ぐことができます。



透析予防指導

当院では、医師・看護師・管理栄養士が連携して透析予防指導を行っています。適切な食事管理や生活習慣の改善を通じて、腎機能の維持や進行を防ぐ方法を学びます。個別のアドバイスにより、患者さん一人ひとりに最適な予防策を提供し、透析を避けるためのサポートをしています。また、腎臓内科の医師とも連携し、総合的な支援を行っています。



天使病院 糖尿病・代謝センターでは、糖尿病内科医、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士など多数のスタッフが連携し、糖尿病患者さんの治療をサポートします。



糖尿病デー

当院では年に一度、11月に糖尿病デーを開催しています。医師や専門スタッフによる講演会やポスター展示、健康相談、栄養相談を通じて、糖尿病の予防や管理方法について学び、健康的な生活をサポートします。ぜひご参加ください！



糖尿病教室

当院では、患者さんが糖尿病について理解を深めるための糖尿病教室の動画をYouTubeで公開しており、自宅で気軽に学べます。食事や運動、血糖値の管理方法など、糖尿病をしっかりと理解するための情報を専門医がわかりやすく解説しています。患者さんの生活に役立つ知識を提供し、より健康的な生活をサポートします。忙しい方や通院が難しい方も、オンラインで学べるので便利です。ぜひご活用ください。

こちらの二次元コードから
天使病院糖尿病教室の
ホームページへアクセスできます。



糖尿病友の会「天使の会」

日本糖尿病協会に加盟する「友の会」は、糖尿病患者さんとそのご家族、医師、看護師、栄養士などの医療スタッフが一緒に活動する会です。当院の糖尿病友の会「天使の会」では、患者さんご家族、医療スタッフが協力して活動しています。年会費2,000円で、月刊「糖尿病ライフさかえ」を毎月お届けしています。今後は、患者さん同士の情報交換会なども企画しています。これらを通じて、糖尿病患者さんがより充実した生活を送るためのサポートをしています。ぜひ「天使の会」に参加し、健康的な生活を共に目指しましょう。



重松 明男先生 (Akio Shigematsu)



血液内科について

血液内科は血液細胞である白血球、赤血球、血小板の異常のある患者様を診察しています。リンパ節や脾臓など血液に関連した臓器の異常のある患者様も診ています。入院は血液悪性腫瘍の患者様が多く、化学療法を施行しています。外来では悪性腫瘍以外の患者様や輸血に通う患者様の治療も行っています。朝に入院患者様の温度板、採血結果確認後に医師間で相談し、病棟で看護師さんと一緒に回診しています。移植治療は施行していない病院であり、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫、骨髄増殖性疾患などの患者様を主体に診察しております。高齢な患者様が多いですが、入院対応も可能であり、札幌の中心に近い総合病院ですので、患者様は受診しやすいと思います。当院は長年、五十嵐先生が一人で働かれていましたが、昨年度より2人体制となり、外来、入院とも余力がある状態です。五十嵐先生のサポートをして、血液内科診療を充実させ、患者様に貢献したいと思います。

プロフィール

- 経歴: 2000年 信州大学医学部卒業
2008年 北海道大学大学院卒業
2015年 札幌北楡病院血液内科
2020年 釧路労災病院血液内科
2024年7月 天使病院
- 日本内科学会専門医 指導医
日本血液学会専門医 指導医
日本造血免疫細胞学会 認定医
日本輸血細胞治療学会 認定医



■専門分野について

天使病院では血液内科全般を担当しています。元来、造血幹細胞移植治療を主に診療をしていましたが、昨年脳出血を発症し、軽症ですが構音障害、右麻痺を起こしました。本年度より天使病院へ異動となり、移植以外の血液内科の対応しております。当院では健診における異常値や他科/他院からの血球異常の紹介が多い病院です。またご高齢の患者様が多く、ADLを維持しながらの治療を行いたいと考えています。

■趣味・特技

以前は週に3回程度飲みに出歩き、夜の街に散財していましたが、コロナ流行と脳出血発症後は飲みに出ることはパタッとなくなりました。同時期より釧路で料理(主に魚料理や塊肉)に凝り始めました。50歳となりアイヌ語や地学の勉強も始めています。もともとラグビーをしていましたので、時々見に行ったりしています。2024年札幌に帰ってきてから可愛い子猫「メムちゃん」を飼いました。ミヌエツトという長毛種で、メムはアイヌ語で「泉」の意味です。このお姫様にメロメロで、日々の主役となっています。西6病棟は猫好きな看護師さんが多く、育て方について、いろいろと教えてもらっています。



■重松先生ってこんな人♪(西6病棟看護師より)

重松先生は、治療を受ける患者さんの病気だけでなく、その人となりや生活のことまで考えてくださっています。患者さんと話すときの優しい雰囲気、患者さんだけでなく私たちも癒されています。気さくでフレンドリーでみんなに慕われています。



天使病院の天使たち、この春から入職した新人天使たちについてご紹介します。

新人天使たちの意気込み



I 手術室 牧野 桜(まきの さくら)さん

感謝の気持ちを忘れずひたむきに

学生時代に学ぶ機会の少ない手術室配属となり不安もありますが、周囲の方々への感謝の気持ちを忘れずに、誠実に仕事に取り組んでいきます。限られた関わりの中でも、不安を抱えている患者さんの思いを汲み取り、安心感を与えられる看護を提供できるよう努力してまいります。



I 西6病棟 松井 佳映(まつい かえ)さん

チームの一員として

地域の人々から愛され、信頼を積み上げてきた天使病院の一員として働くことを大変嬉しく思います。期待と不安が入り混じる日々ですが、主体的に学ぶ姿勢を大切にほっと安心してもらえる看護を実現できるよう、精進して参ります。

新人さんへのメッセージ

看護部長
中川 千江子

新人助産師・看護師の皆さん

看護職としての人生の第一歩に天使病院を選んでくださりありがとうございます。

これからの1年は、皆さんの人生の中できっと大きなイベントになると思います。

なかなかうまくいかない自分と向き合ったり、悩んだり、でも仲間と語ったり笑ったり...たくさんのかたの経験し、たくさん頑張らなくてはならないと思います。でもその経験は、看護職の基礎になるだけでなく、人として成長につながるものです。笑顔忘れずに、患者さんが『訪れたとき、いつも「ほっ」としてもらえる病院』を目指しましょう。

新しい“天使たち”が仲間入りしました!

今年度も21名の看護師が天使病院に入職しました!

初日のオリエンテーションでは、新しい環境に、緊張した面持ちで講師の話に耳を傾けていました。

ほぼコロナ禍前の環境に戻った、新入職の“天使たち”。これまでと大きく変化した環境で、また新たな姿を見せてくれると思います。看護師として一人前になるための数ヶ月間のトレーニング、ぜひ乗り切ってほしいと思います!



第21回 「VR(仮想空間)体験」

循環器内科
西村 光弘



今回広報誌の担当者からエッセイを頼まれましたが、内容はなんでも良い、なんならHPの医師紹介の趣味・特技にあるゲームでも良いと言われ、そうすることにしました。ゲームといえば今ならニンテンドースイッチやブレイステーションですが、研修医時代に地方出張した時にはファミコンやPC98でスーパーマリオやドラクエ、ロードランナー、夢幻の心臓(RPG)などをやっていました。その後、忙しくて一時ゲームから離れたのですが、天使病院に赴任して、旧循内医局に色々なゲーム機を持ち込んで、当時いた先生とドラクエやメタルギアソリッド、バイオハザード、Dの食卓、エネミーゼロ、グンパイなどをやっていたのを思い出します。

しかし、その後その先生が辞めて、忙しくなったこともあり、またゲームからは遠ざかっていました。しかし、昨年10月に院長を降りたこともあり、また少しやってみようかと考えていたところでした。そんな中で実は2021年9月に何気なくOculus Quest2を買っていました。Oculus Quest2は、Meta(旧Facebook)が開発したスタンドアロン型のVRヘッドセットで、PCや外部センサーなしで高品質なVR体験が可能です。主な機能として以下のようなものがあります。

- ・VRゲーム：直感的な操作でリアルなゲーム体験が可能。
- ・VR映画・動画鑑賞：3D映像や没入感のある映画視聴。
- ・VRソーシャルスペース：仮想空間で他のユーザーと交流。
- ・フィットネス・エクササイズ：運動を取り入れたVR体験。
- ・仕事・学習用途：バーチャルオフィスや教育プラットフォームの活用。

これにより、従来のエンターテインメントの枠を超えた体験が可能になるそうです。

まず、Oculus Quest2の魅力は、なんとといってもその「没入感」と「手軽さ」です。ケーブルレスで自由に動き回れるため、現実世界と同じようにVR空間を体験できます。VRゲームでは、まるでゲームの世界に入り込んだかのような感覚を味わえます。例えば、ジェットコースターを体験できるEpic Roller Coastersでは視覚だけなのに吐きそうになるし、バイオハザードでは実際に体を動かして敵を倒すのですが、不意を突かれて本当に怖いです。また、YouTube VRやNetflix VRを活用すれば、まるで映画館のような大画面で映画を楽しめますし、360度の映像も視聴できるため、まるで映画の中にいるかのような体験もできます。「VRChat」や「Horizon Worlds」では、アバターを通じて世界中の人々とコミュニケーションが可能になります。「FitXR」や「Supernatural」などのフィットネスゲームを活用すれば、楽しみながら運動不足を解消できます。

現在VR技術は日々進化しており、今後ますます多くの分野での活用が期待されています。

- ・解像度と視野角の向上：よりリアルな映像表現が可能に。
- ・ハプティック技術の発展：触覚フィードバックにより、よりリアルな感覚を体験。
- ・メタバースの発展：仮想空間での生活や仕事が一般化。
- ・医療・教育分野への応用：VRを使った手術シミュレーションや学習環境の提供。

Oculus Quest2は昨年販売中止となり、今は後継機のMeta Quest3やMeta Quest3Sが販売されています。ブレイステーションやアップルからもVR端末が販売されており、これからますますVRの可能性は広がっていくと思います。と言う訳でそろそろ機種変更をしようかと考えている今日この頃です。

病院図書室

今号の広報誌を手にとってくださいました皆さま、ありがとうございます。私は天使病院の中にある「中央図書室」の司書です。皆さまは、病院にいらっしゃった時に図書室をご覧になったことはありますか？もしATMや売店でしたら、病院の中のどこにあるか分からなくても「どこ？」と聞けば場所も分かり、利用してもらえますよね。けれども図書室は「病院に図書室があるんだね！」と驚かれることがあります。「まさか病院の中にあるとは」。…なかなか思いついてもらえないのが、図書室なのです。

天使病院中央図書室は、約21年前(2004年4月5日)に開室しました。開室当初から、病院職員だけでなく一般の方々(患者さんやご家族など)も入室できる、共同の医学図書館(室)です。小説などの一般書は置いていませんが、主に病院職員が利用する専門書や学術雑誌のほかに「やさしく書かれた医療図書」もあります。患者さんなど一般の方々も、図書室の本を利用されることで、病気や健康への理解をより深めていらっしゃいます。

今はインターネットで簡単に情報検索ができる時代です。専門家が発信する正しい情報もありますが、一方で「〇〇を食べたら病気が治った」「〇〇をしたら△△が消えた」などの、怪しい情報もあります。間違った情報を目にしかえて不安が増したり、不適切な治療法を選択してしまったりするリスクもあります。

専門家により書かれ、医学系出版社の編集者・監修者による校正を経て出版に至った本などの情報は、出どころや科学的根拠があいまいな情報と比べると信頼性が高いです。ですが、「本だから必ず正しい」ということでもなく、残念ながら偏向した考えのもと執筆してしまうような著者もいますので、そのような怪しい「トンデモ医療本」には気をつけましょう。インターネットでも本でも、医療情報を得るときには「情報の質」に注目してみてください。医療情報を賢く見きわめる方法として、聖路加国際大学の「いなかもち」¹⁾が知られています。

い：いつ(実は古い情報で、今は変わっているのかも?)

な：なんのために(読者を商業目的で誘導していないか? 広告記事ではないか?)

か：かいた人はだれで(信頼できる専門家か?)

も：もとネタは何なのか(学術論文などが参考文献に挙がっているか?)

ち：ちがう情報を比べたか(別の本にも同じように書いてあるか?)



情報を得るための選択肢の1つとして、図書室もご利用ください。本や学術雑誌から得た情報についても、症状などには個人差がありますので、ご不明な点は医師に相談していただきたいと思います。

お席に限りのある小さな図書室ですが、どんな本があるんだろう? どんな場所かな? …と、お気軽にお立ち寄りください。小さなお子さんと一緒に来ていただいてもうれしいです。

(司書 工藤女恵)

参考文献

1) 聖路加国際大学. ヘルスリテラシーeラーニング.
<https://car.luke.ac.jp/HLproject-1/qvcccn0000000b5a-att/qvcccn0000000s4j.pdf>
[accessed 2025-03-10]

天使病院 中央図書室

場 所: 西棟3F

開室時間: 月～金曜日 8:30～12:00、13:00～17:15

12:00～13:00はお昼休みのため閉室します

このほか閉室日は、掲示または天使病院ホームページでご案内します
貸 出: 本数が限られていますので、一般の方への貸出はしておりません
図書室内でご利用ください



産婦人科外来で通院中の妊婦さんにアンケートを実施しました。(2024年11月20日～12月18日)

当院を選んだ理由として、多くの方から「NICUがあること、地域周産期母子医療センターであるので安心して通える」と回答されました。専門的な医療設備が整っている点に安心感を感じていることがわかりました。また「通いやすさ」や「家族や知人のすすめ」も大きな選択理由となっていました。

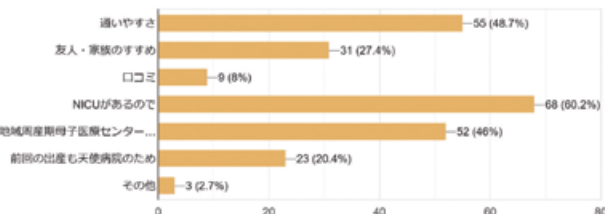
当院に対する評価として、「医師や看護師の優しい対応」を上げる声が多数ありました。スタッフ一人ひとりが妊婦さんに寄り添い、安心して通院できる環境が評価されました。今後も、天使病院で産んで良かったと思っていただけるよう努力していきたいです。

一方でWi-Fi環境の整備や、面会の拡大などの改善点の意見も頂きました。これからのご意見を真摯に受け止め、今後のサービス向上に努めて参ります。

今後とも当院をよろしくお願い申し上げます。

問1 4. 今回、天使病院を選んだ理由をお聞かせください。(複数回答可)

113件の回答



糖尿病 予防教室について

オンライン(オンデマンド)方式の糖尿病予防教室を開催しています。視聴期間は掲載から3ヶ月間です。詳しくは天使病院のホームページをご覧ください。



▲ ホームページ

スケジュール(2025年5月～7月)

月	タイトル	担当者
5月	一緒に糖尿病を考えてみませんか	医師 吉田
	お薬～飲めてますか	薬剤師
6月	3大合併症～糖尿病性神経障害～	医師 高階
	食べても良いの? 果物編	栄養科
7月	糖尿病性昏睡	医師 中谷
	糖尿病の運動について	理学療法士 右近

8月以降の予定については、改めてご案内させていただきます。



表紙の写真紹介

今季の表紙写真 ～西6病棟 織田さん～

はじめに、このような機会をいただき、関係者の皆様と推薦して下さった河村課長に心より感謝申し上げます。

春らしい写真をとのことで桜を選びました。厳しい冬が終わり、桜開花予想がニュースになったり、ふとつけたテレビで桜ソング特集が流れてくると春の訪れを実感してわくわくしますよね(みなさんの思い出の桜ソングはなんですか?)。このわくわくした前向きな気持ちはナチュラルキラー細胞を活性化して免疫力を高めるんだそうです。美しい桜を觀賞しながら、元気に今年度のスタートをきりたいものです。



この方が推薦! ～西6病棟 河村課長～

織田さんと数人でご飯を食べに行ったとき、織田さんの趣味が【カメラ】で色々な場所に写真を撮りに行っているという話を始めて聞きました。これといった趣味のない私からしたら「素敵な趣味だなあ」と感心しておりました。

そんな時、院内広報誌の表紙を募集していることを知り、半ば強引に(!?)推薦させていただきました。皆さんに織田さんの素敵な写真をたくさん見てもらえたらと思います。



広報誌 「天使びょういん」第76号
発行日 令和7年4月15日
発行人 院長 山本浩史
編集 「天使びょういん」編集委員会

編集後記

「札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校」生徒さんの制作協力のもと、動画を作成しました。▼

はじめて赤ちゃんに
出会えた瞬間▶



天使病院
産科・NICU紹介動画▶



本誌の掲載写真や内容も試行錯誤し、もっともっと天使病院を知って頂けるよう一歩前へ進んでいきます!!